

2012年6月29日

愛媛県知事 中村時広 様

〒790-0003 松山市三番町 5-2-3 ハイビル 3F TEL089-948-9990  
伊方原発をとめる会

【共同代表】

安西賢誠（真宗大谷派専念寺住職）

大原英記（平和運動センター事務局長）

草薙順一（弁護士）

河野文朗（愛媛医療生協理事長）

白戸暉男（元コープ自然派えひめ理事長）

須藤昭男（インマヌエル松山キリスト教会牧師・福島県出身）

清野良榮（松山大学教授・福島県出身）

立川百恵（コープえひめ前理事長）

中尾寛（愛媛労連特別執行委員）

益田紀志雄（医師）

真鍋知巳（医師）

村田武（愛媛大学社会連携推進機構教授）

和田宰（伊方等の原発をなくす愛媛県民連絡会議代表幹事）

渡部寛志（福島県南相馬市から避難した農業従事者）

## 「安全無視した審査促進、四電情報鵜呑み」等の態度をあらため、 再稼働を承認せず核燃料の厳重管理と廃炉計画を求めるよう申し入れます

中村知事は、6月18日の記者会見で、自らの言う「白紙」には、伊方原発を「再稼働しない」選択は含まないと語っています。これでは「再稼働ありき」です。条件ができるのを待っていることになります。安全が確実でないなら「再稼働しない」選択があるはずです。県民を煙に巻くような「白紙」論は捨て去り、「絶対に福島のような事故を起こさない」確実な道をとるべきです。

また、知事は伊方原発のストレステストの審査を、福島事故を防ぐことができず事故後には有効な対策も打てず醜態をさらけ出した原子力安全委員会で行うよう促し、枝野大臣や四電社長も知事に呼応するかのよう言動を示しています。審査を急がせ、結果、再稼働を急がせる露骨な言動は許されません。

6月19日付愛媛新聞によれば、四国電力の柿木原子力本部長が中村知事に会い、伊方原発3号機は「570ガルの2倍以上の揺れに耐えられる余裕を確認した」と報告。知事は「立地地域を中心に幅広く関係者に情報を公開するようにしてほしい」と四電に要請し、さらに1・2号機についても同様の評価をするよう求めたとあります。

この四国電力の報告は客観性がありません。国にも第三者機関にも検証を求めないと四国電力自体が言明しているものです。そもそも「2倍」程度で巨大地震の力に耐えられるという保障はありません。制御棒の挿入時間にしても、震源からの距離を含めて検証し直さなくてはなりません、ストレステストの評価対象から外されています。

四国の電力事情は、四電の報告した資料を見ても、昨年並の需要ならば十分間に合っています。伊方原発を稼働させないこと、核燃料等の厳重管理も含めて廃炉計画を作らせることが重要となっています。ついては、以下の点を申し入れます。

- (1) 再稼働への審査を急がせる言動を撤回すること。
- (2) 四国電力の「2倍」情報をうのみにせず、愛媛県が自ら客観性のある検証を行うこと。
- (3) 伊方原発の稼働を認めず、核燃料等の厳重管理も含めて廃炉計画を立てさせること。
- (4) 各県並びに県内全域における住民の不安の声、稼働反対の声に誠実に対応すること。
- (5) 県営を含む四国4県全ての水力発電所が電力ピーク時に機敏に起動できるよう、水利権者との調整を行うなど、4県で連携した取り組みをすすめ県民に公表すること。
- (6) 伊方原発環境安全管理委員会に、不安の声・稼働反対の声を伝える住民を加えること。同技術部会に地震や活断層の専門家原発問題に慎重で批判的な意見をもつ委員を加えること。

以上